

# 福井県和泉村夫婦池のマメシジミ

長 田 勝\*

The record of pill clam *Pisidium* (Veneroidea, Pisidiidae)  
in Meoto-ike Pond, Izumi-Mura, Fukui Prefecture, Japan

Masaru Osada\*

キーワード: フクイマメシジミ, *Pisidium*, 夫婦池, 福井県和泉村

2002年6月22日、トンボ類の分布調査のため福井県大野郡和泉村の大納越戸谷源流 (MC: 5336-6521) にある夫婦池を訪れた。夫婦池は標高約1,040mの凹地にあるメガネ形をした大小2つの池で、地元では悲恋伝説の池として知られている。池の周囲は湿地状を呈し、水量の多い時は双方の池が繋がることがある。池の底には落ち葉が堆積しており、トンボの幼虫 (ヤゴ) を採集するため直径20cm, 4mmメッシュの篩で泥混じりの落ち葉を掬ったところ、ヤゴとともに微小な二枚貝が得られた。貝はひと掬いで数個~10数個を採集することができ、その形状からマメシジミ類と思われたので、約30個体を80%エチルアルコールの液浸にして持ち帰った。殻長は4.3~5.5mmである。

「福井県の陸水生物」(1998)によれば、福井県内では池田町部子山千本杉の東側谷筋、冠山登山道の中腹にある沼、勝山市の取立山、今庄町の夜叉ヶ池などにフクイマメシジミ *Pisidium kawamurai hukuiense* Mori が生息している。上記文献によると「マメシジミ類は日本に20種以上もあり区別が難しい」ので、夫婦池で採集した標本のうち約10個体を愛媛大学教育学部の家山博史先生にお送りして見ていただいたところ、フクイマメシジミであった。フクイマメシジミは原名亜種カワムラムメシジミ *P. kawamurai kawamurai* Mori にくらべ、殻表成長線の線条が粗く明瞭なので区別できるとのことである。

フクイマメシジミは「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 (福井県レッドデータブック)」(2002)では県域絶滅危惧 類に評価されており、そのカテゴリーは“絶滅の危険が増大している種で、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの”と定義されている。県内既知産地の中ではその生息個体数が激減している箇所もあり、同書では本種の存続を脅かす要因として、「歩道や公園化のための周囲の伐採による乾燥化、腐葉土の堆積する湿地の減少」が指摘されている。夫婦池は深い谷の源流部に位置しており、池に至る登山道もないので訪れる人はほとんどいない。したがって、池周辺の自然環境は現時点では良好な状態といえよう。2002年5月15日付け福井新聞に掲載された記事によ

\*福井市自然史博物館 (〒918-8006 福井市足羽上町147)

長 田 勝

ると、和泉村当局と福井森林管理署が夫婦池に通じる登山道を整備し、池探訪のツアーを企画しているとのことである。いわゆる村おこしの一環として行なう事業のようであるが、フクイマメシジミをはじめとする生き物たちの生存に悪影響がないよう慎重な対応を望むものである。

末筆ながら夫婦池のフクイマメシジミを同定して下さった家山博史先生、トンボの分布調査に同行された日本蜻蛉学会会員の和田茂樹氏ならびに福井岳人倶楽部の瓜生康二、山崎英治、牧田正弘、林 佳寿実の各氏に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

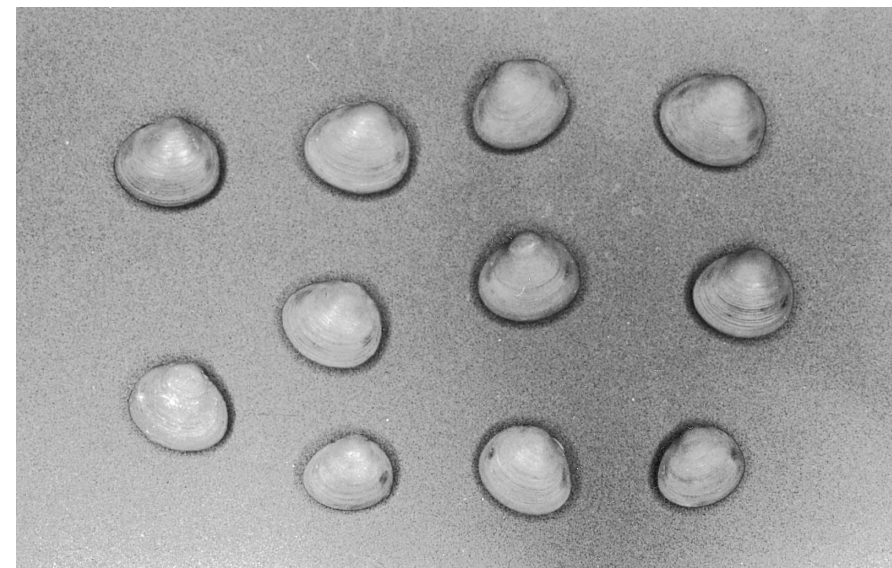
福井県自然環境保全調査研究会陸水生物部会編. 1998. 福井県の陸水生物. 203pp. 福井県.  
福井県福祉環境部自然保護課編. 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物. 243pp. 福井県.



夫婦池 (大きい方の池)



夫婦池 (小さい方の池)



夫婦池産  
フクイマメシジミ  
(スケールの目盛りは1mm)